



黒目で見えるのに、なぜ白目も必要なの

目のしくみはカメラと同じ

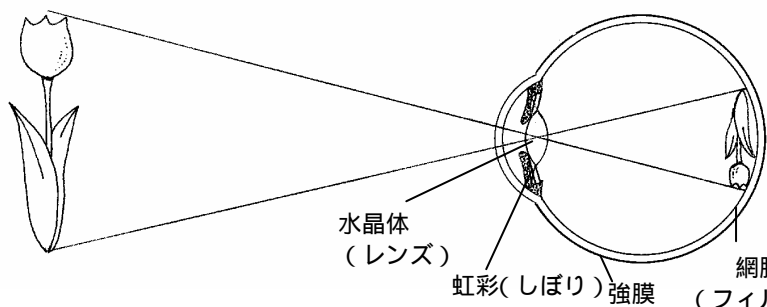
目のしくみは、カメラのしくみによく似ており、**眼球**とよばれています。
 目にも**レンズ**があり、**水晶体**とよばれています。**水晶体**の前には、**虹彩**という**膜**があつて、カメラの**しぼり**のような**やくめ**をしています。また、**眼球**のおくには**もつまく**があり、**写真**の**フィルム**のような**やくめ**をしています。そして、**水晶体**のおくの**眼球**は、**硝子体**という液体が**つま**った**暗箱**になっており、**眼球**全体が、**カメラ**の**ボディ**というわけです。

黒目だけでは物は見えない

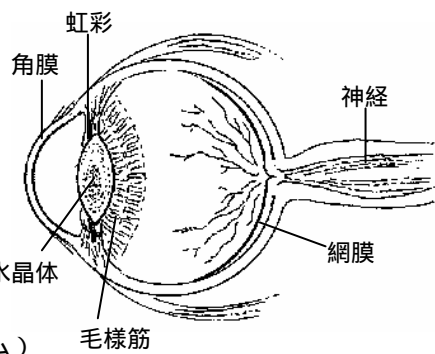
ふつう、**黒目**といっているのは、**水晶体**の前にある、**真っ黒**な**あな**と**虹彩**です。**黒目**の**部分**は“**角膜**”とよばれ、**白目**の**部分**は“**強膜**”とよばれます。そして、**角膜**は、**無色**と**う**明ですが、**強膜**は、**乳白色**で**不**と**う**明です。**強膜**は、**眼球**全体を包んでいますが、**白目**とよばれるのは、そのうちで、**前方**から見える**部分**だけです。

物が見えるためには、**水晶体**を通った**光**が、**目**のおくにある**網膜**にとどき、この**網膜**が**感**じた**光**や**色**が、**神経**を通して**脳**に**伝**わらなければなりません。**眼球**全体は**カメラ**の**ボディ**の**やくめ**をしていますので、**白目**がなくて**は**、**物**は**見**えないのです。(監修・保志 宏)

目で、物が見えるしくみ



目のしくみは、カメラのしくみによく似ている



眼球のしくみ

